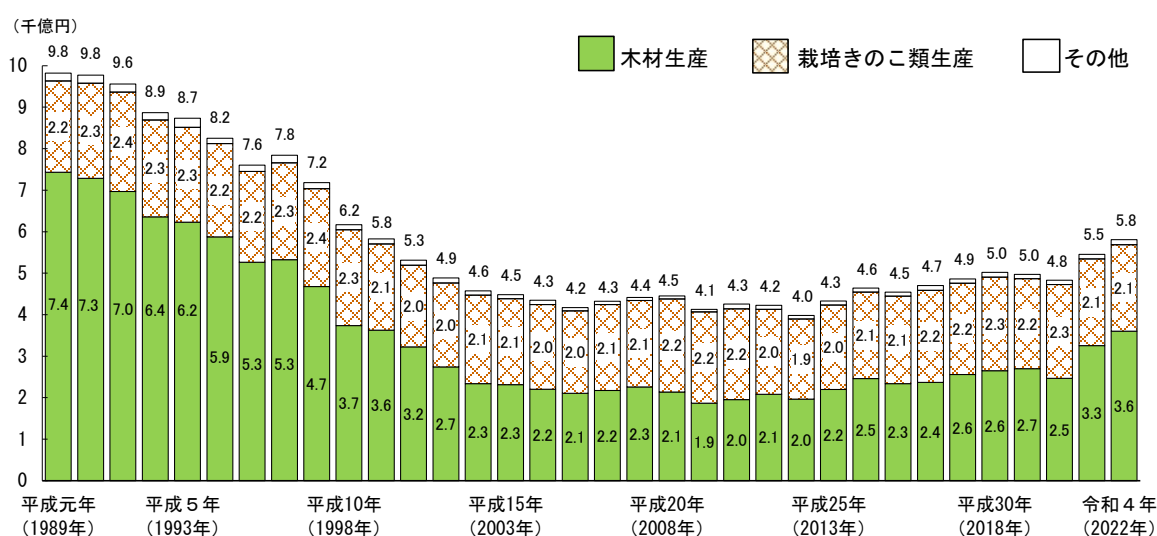


【統計結果の概要】

林業産出額は、木材価格の低下とそれに伴う国産材の生産量の減少を主たる要因として長期的に減少してきたが、平成16年以降は4千億円前後で推移し、平成25年以降は増加傾向で推移してきた。

令和4年は、製材用素材等の価格上昇の影響が続いたことや燃料用チップ素材の生産量が増加したこと等により木材生産の産出額が増加し、前年に比べ350億円（6.4%）増加し、5,807億円となった。

図1 林業産出額の推移（全国）



注：「その他」とは薪炭生産及び林野副産物採取である（図2において同じ。）。

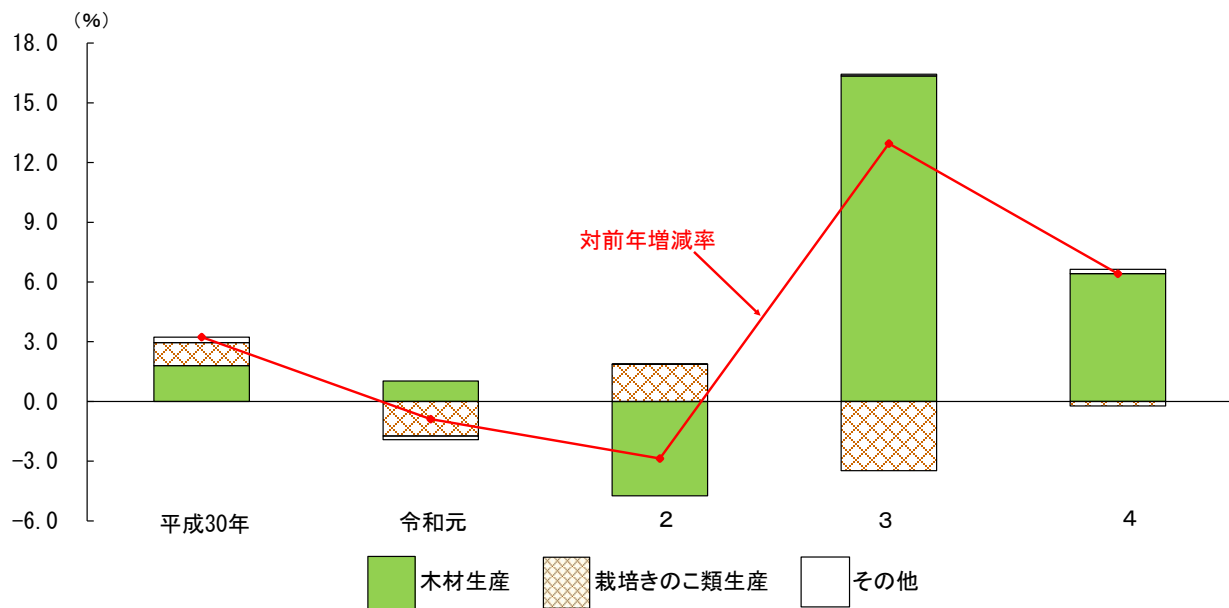
表1 林業産出額（全国）

区 分	令和3年	4		
		実数	構成割合	対前年増減率
	億円	億円	%	%
林 業 産 出 額	5,456.6	5,806.6	100.0	6.4
木 材 生 産	3,254.1	3,604.6	62.1	10.8
栽培きのこ類生産	2,091.6	2,079.5	35.8	△ 0.6
薪 炭 生 産	62.3	63.9	1.1	2.6
林 野 副 産 物 採 取	48.6	58.6	1.0	20.6

注：1 表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 「林野副産物採取」にはまつたけ、野生鳥獣、野草等を含む。

図2 林業産出額の対前年増減率と部門別寄与度の推移



【関連データ】

主要林産物の輸出額の推移

区分	平成30年	令和元	2	3	4	
					実額	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
農林水産物 計	9,067.6	9,121.0	9,256.5	11,626.0	13,372.1	15.0
林産物 計	376.0	370.4	429.1	569.8	637.6	11.9
うち 素材(丸太)	148.0	147.1	163.4	210.6	205.6	△ 2.4
製材・加工材	64.5	63.0	70.4	103.5	98.4	△ 4.9
合板、単板その他 積層木材	75.5	69.0	61.8	81.2	118.2	45.6
きのこ類	6.0	6.0	8.5	10.3	11.1	7.4

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」及び財務省「貿易統計」

注：1 きのこ類の平成30年及び令和元年の数値は、財務省「貿易統計」から再集計した数値であり、林産物計には含まれていない。

2 金額は、FOB価格（Free on board、運賃・保険料を含まない価格）である。

3 対前年増減率は、原数値（千円単位）で算出した数値である。

【統計結果】

1 木材生産（全国）

木材生産の産出額は、平成25年以降、新設住宅着工戸数が堅調に推移してきたことや、中国等への丸太輸出量が増加したこと、再生可能エネルギーの固定価格買取制度（FIT制度）の導入に伴って木質バイオマス発電に利用する燃料用チップ素材の利用量が増加したこと等により、増加傾向で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ351億円（10.8%）増加し、3,605億円となった。

これは、すぎ等の製材用素材等について、令和3年に生じた輸入木材の不足に伴う価格上昇の影響が続いたこと、また、燃料用チップ素材について、木質バイオマス発電施設の増加に伴い引き続き生産量が増加したこと等が寄与したものと考えられる。

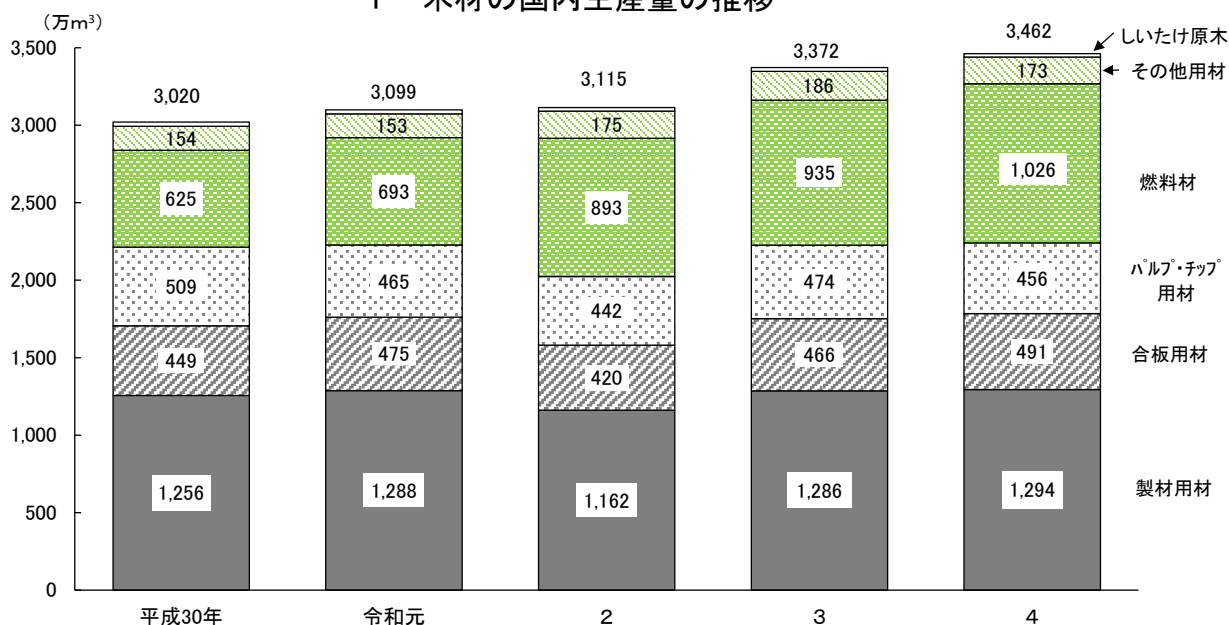
表2 木材生産の産出額の推移（全国）

区 分	平成30年	令和元	2	3	4	
					実数	対前年 増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
木 材 生 産	2,648.3	2,700.0	2,464.3	3,254.1	3,604.6	10.8
製 材 用 素 材 等	2,289.2	2,304.3	1,953.3	2,674.5	2,937.9	9.8
輸 出 丸 太	111.6	109.2	123.9	163.3	169.7	3.9
燃料用チップ素材	247.6	286.6	387.1	416.3	497.0	19.4

注：製材用素材等の産出額には、パルプ工場へ直接入荷されるパルプ用素材の産出額を含む。

【関連データ】

1 木材の国内生産量の推移



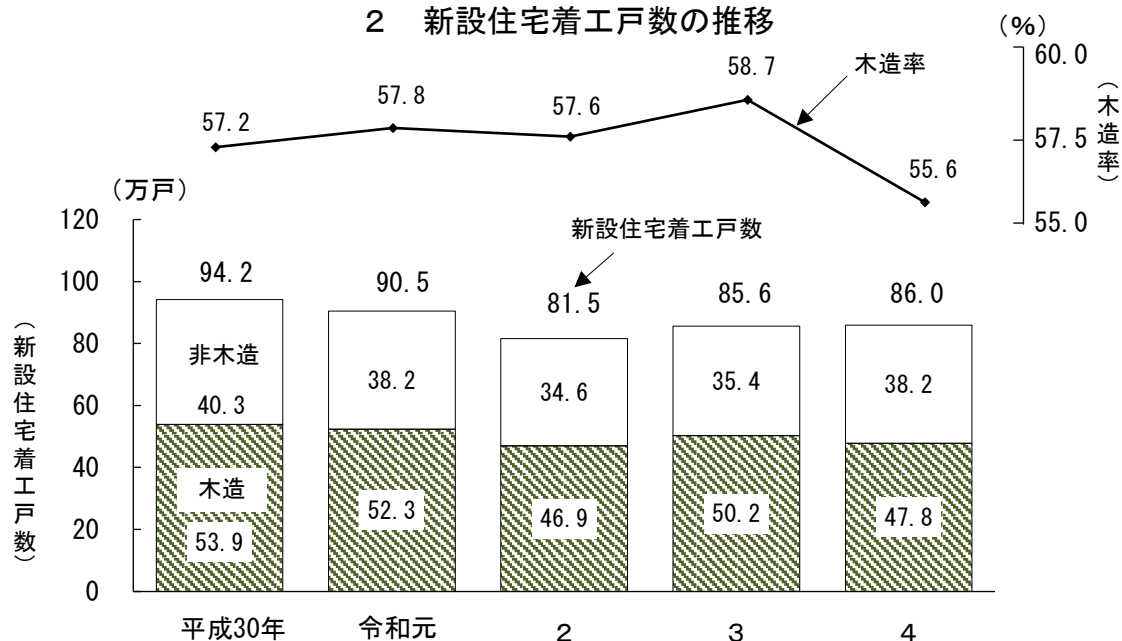
資料：林野庁「木材需給表」

注：1 総需要量のうち国内生産されたものの量である。

2 合板用材は、薄板、単板、ブロックボード、LVL等である。

3 令和2年に、その他用材の加工材、構造用集成材等を製材用材へ、再生木材をパルプ・チップ用材へ計上しており、令和元年結果もこれに合わせて再集計した値である。そのため、令和元年以降のその他用材は、枕木、電柱、くい丸太、足場丸太等である。

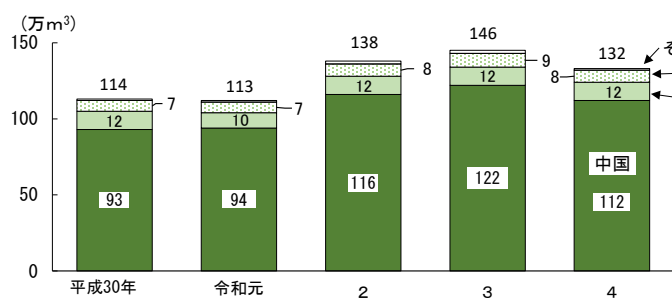
2 新設住宅着工戸数の推移



資料：国土交通省「住宅着工統計」

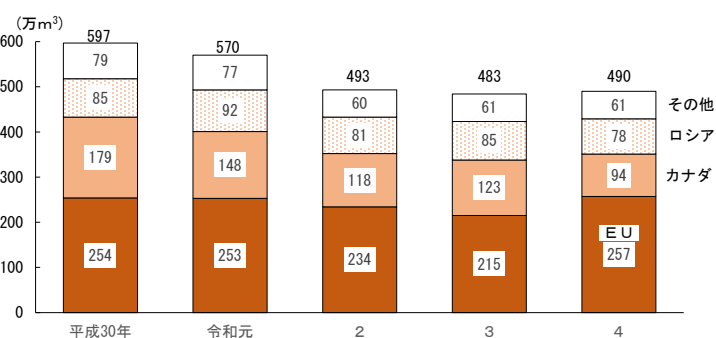
注：木造率は、原数値（戸）で算出した数値である。

3 素材（丸太）の国別輸出量の推移



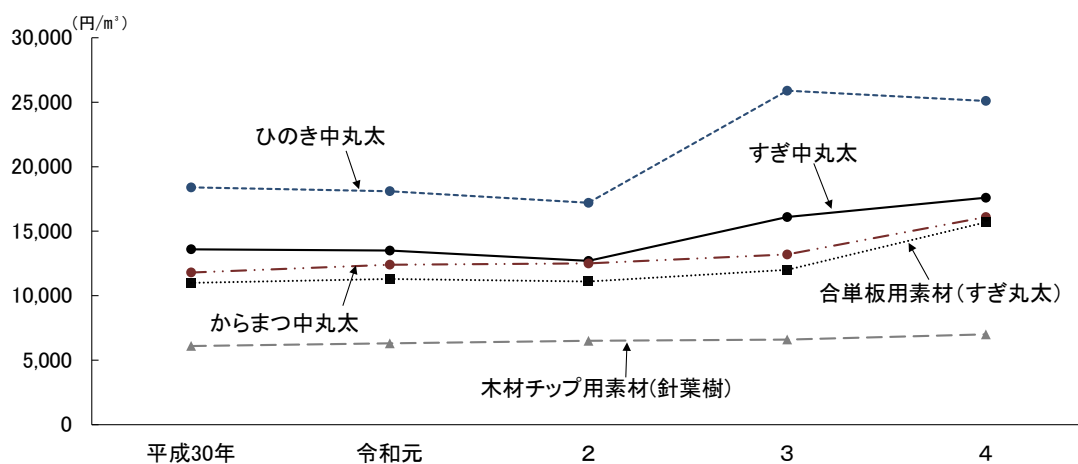
資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

4 製材の国別輸入量の推移



資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」及び財務省「貿易統計」

5 主な素材（丸太）価格の推移



資料：農林水産省統計部「木材需給報告書」

注：すぎ中丸太は径 14.0～22.0cm、長 3.65～4.0m、ひのき中丸太は径 14.0～22.0cm、長 3.65～4.0m、からまつ中丸太は径 14.0～28.0cm、長 3.65～4.0mのものである。

2 栽培きのこ類生産（全国）

栽培きのこ類生産の産出額は、2,000億円を超える水準で推移してきた。

令和4年は、前年に比べ12億円（0.6%）減少し、2,080億円となった。

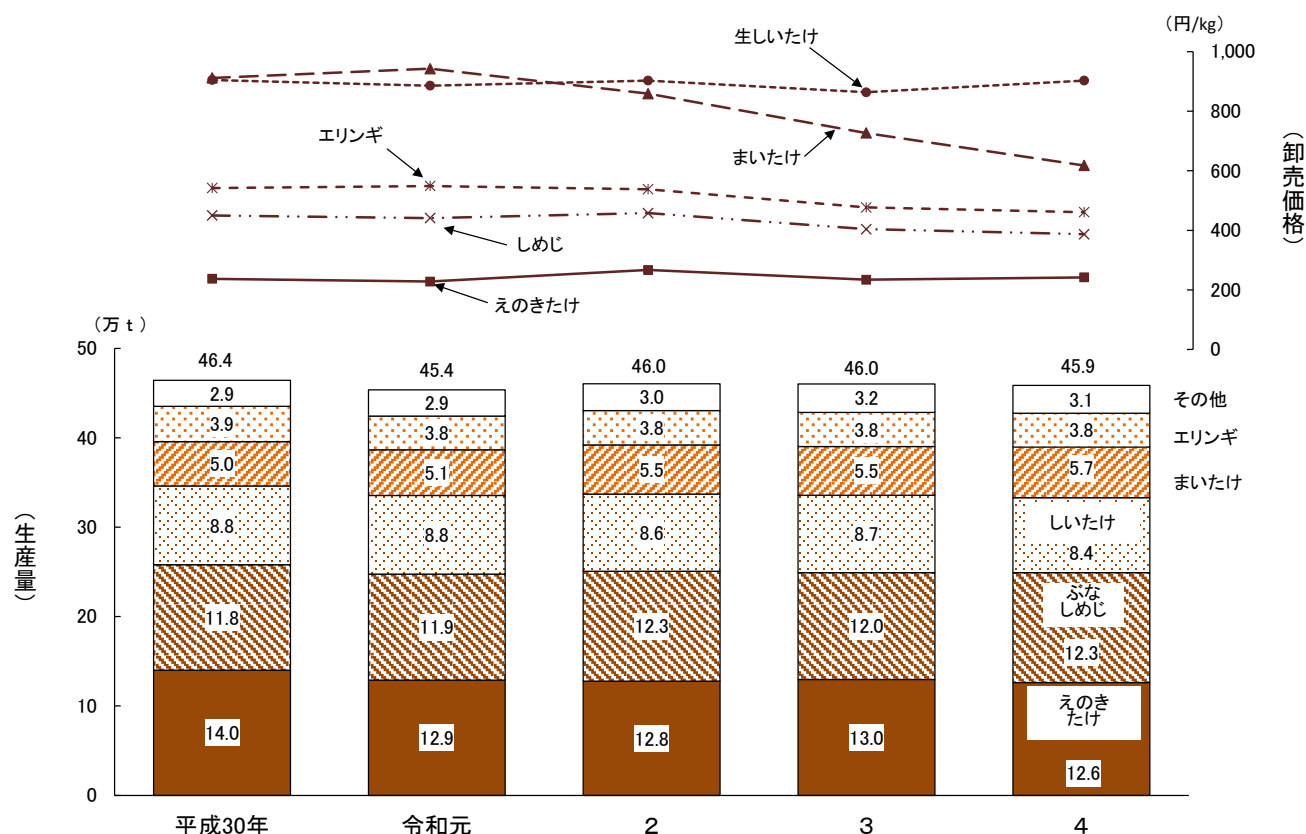
これは、令和3年から新型コロナウイルス感染症拡大による巣ごもり需要が一段落し、需給が緩んだ状況が継続する中、まいたけ等の価格が低下したこと等が影響したものと考えられる。

表3 栽培きのこ類生産の産出額の推移（全国）

区 分	単位	平成30年	令和元	2	3	4
実 額	億円	2,253.7	2,166.7	2,259.6	2,091.6	2,079.5
対前年増減率	%	2.6	△ 3.9	4.3	△ 7.4	△ 0.6

【関連データ】

きのこ類の生産量及び卸売価格の推移



資料：農林水産省統計部「青果物卸売市場調査」及び「特用林産物生産統計調査」

注：1 えのきたけ、しめじ及び生しいたけの卸売価格は、青果物卸売市場調査における主要な青果物卸売市場から推計した全国の平均価格、まいたけ及びエリンギの卸売価格は、東京都中央卸売市場年平均価格である。

2 しいたけの生産量は、生しいたけと乾しいたけ（生換算）の合計である。

3 生産量のその他は、なめこ、ひらたけ、まつたけ及びきくらげ類である。

3 都道府県別林業産出額（上位5都道府県）

令和4年における林業産出額の上位5都道府県は、長野県が574億円（対前年増減率0.6%減少）、北海道が480億円（同15.4%増加）、新潟県が441億円（同0.3%減少）、宮崎県が336億円（同9.9%減少）、岩手県が257億円（同32.9%増加）の順となった。

表4 上位5都道府県の林業産出額の推移

都道府県	平成30年	令和元	2	3	4	
					実数	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
都道府県計	4,625.6	4,545.7	4,286.4	4,839.4	5,099.8	5.4
うち長野	593.5	566.9	598.2	577.8	574.4	△ 0.6
北海道	468.2	466.9	387.7	416.0	480.2	15.4
新潟	476.8	469.3	481.0	441.9	440.5	△ 0.3
宮崎	291.3	287.8	255.0	372.2	335.5	△ 9.9
岩手	196.8	192.5	178.2	193.1	256.7	32.9

注： 都道府県別産出額には、全国値には計上する木材生産におけるパルプ工場へ直接入荷されるパルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ素材の産出額、薪炭生産におけるまきの産出額、林野副産物採取における木ろう及び生うるしの産出額を計上しない。また、全国値には計上しない木材生産における他都道府県に販売されたしいたけ原木の産出額を計上する（以下同じ。）。

図3 木材生産部門の産出額（都道府県別）

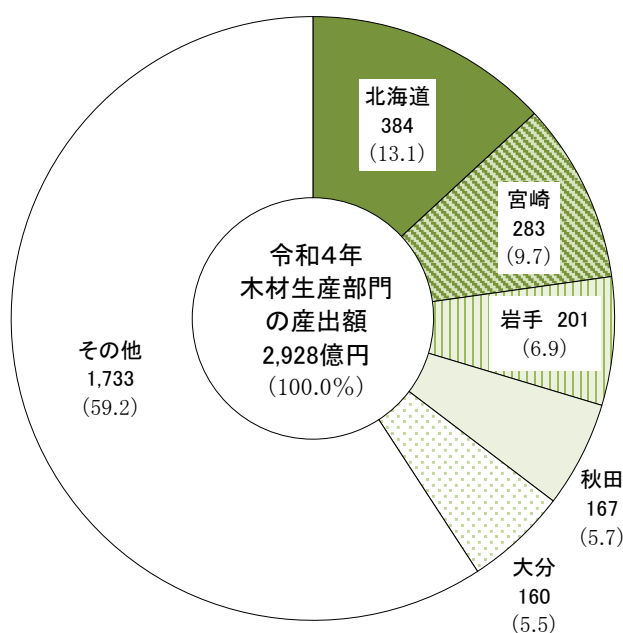


図4 栽培きのこ類生産部門の産出額（都道府県別）

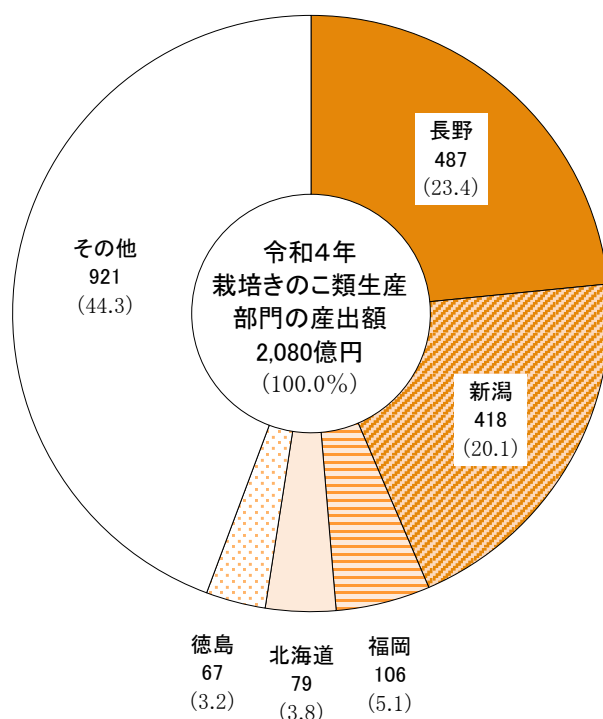
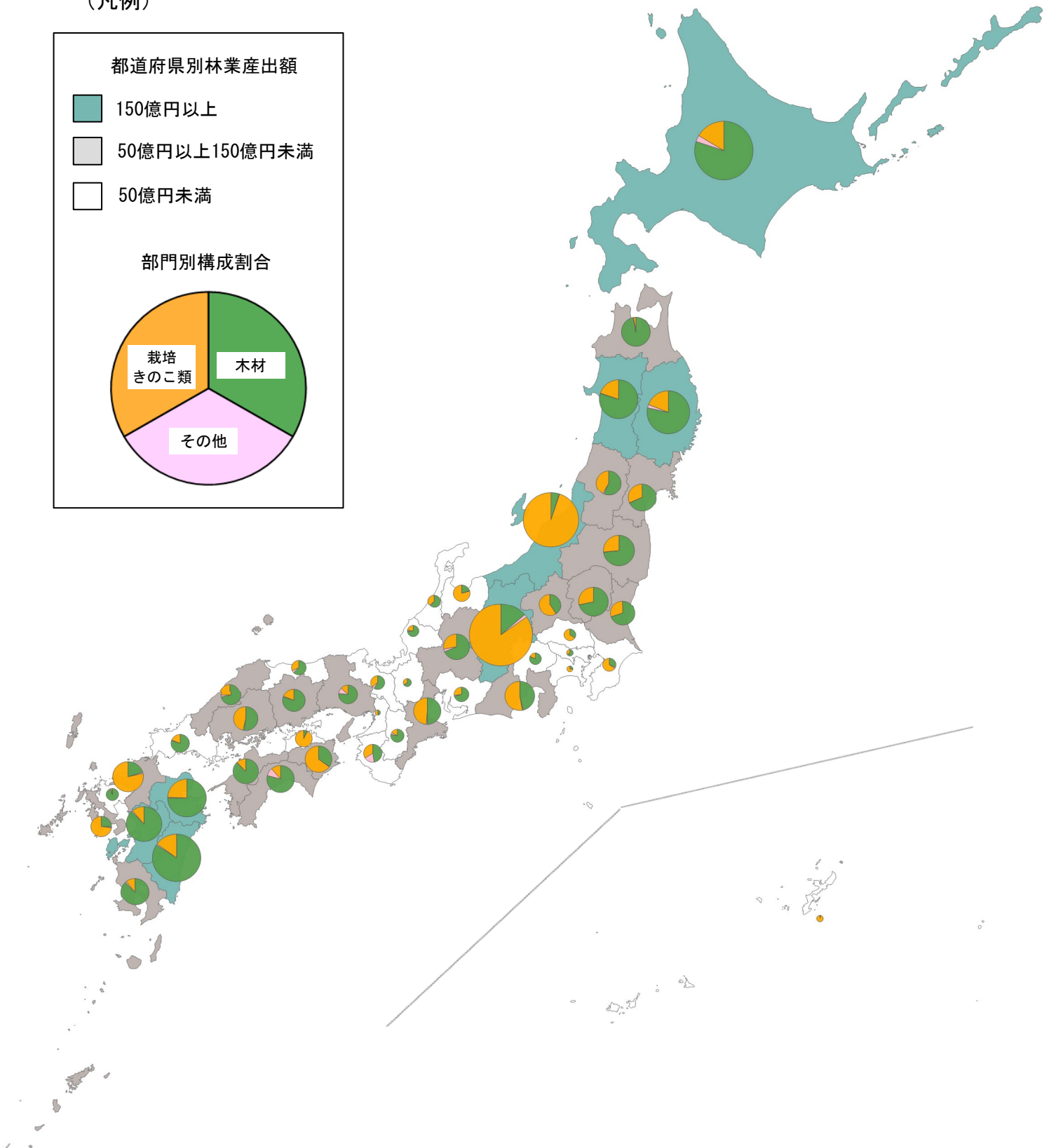
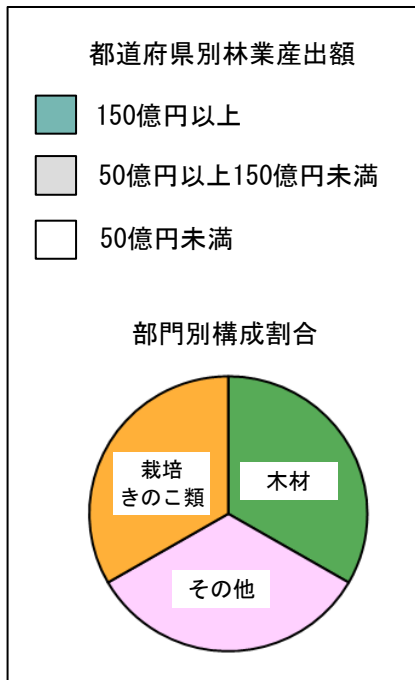


図5 都道府県別林業産出額及び部門別構成割合

(凡例)



注：都道府県ごとの円グラフの大きさは、林業産出額（実額）を表している。